



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



MCN REPORT

2024.12 vol.61



臨床の現場で学び、成長する

contents

臨地実習での学び	1
TOPICS	2
地域連携の取り組み	3
研究室訪問	5
大学の出来事・お知らせ	6

臨地実習での学び

4年間の実習を振り返って

4年生 濱口 寧々 さん

1年次には3日間の臨地実習でコミュニケーション方法を学び、2年次の実習では、臨地実習の予定がコロナ禍の影響で学内実習となり架空の患者さんへの看護を経験しました。実際に患者さんに関われない難しさや不安を抱いていましたが、3年次の領域別実習では、臨地実習ができ、実際に患者さんと直接関われることを嬉しく思いました。3年次領域別実習では、2週間ずつ各領域を経験することで多くの患者さんに関わらせていただき、初めての長期間の実習で看護ケアや関わり方に悩むこともありましたが、グループで相談・協力し、個性のあるよりよい看護を行えるように取り組むことが出来ました。4年次の助産学実習では、多くの妊産婦さんに関わり生命誕生の瞬間に立ち合わせていただけることに喜びを感じるとともに、自らの未熟さを痛感しました。母児の命を預かっているという不安や緊張で押しつぶされそうになる時もありましたが、指導者さんや先生方、助産師課程で同じ目標に向かう友人に支えられ、少しずつできることが増え成長することができたと思います。すべての妊産婦さんとその家族に寄り添える助産師となれるようこれからも学び続けたいです。



4年生 上谷 智輝 さん

1年の実習では、病棟の構造に関する学びや患者とのコミュニケーション、実際に行われる業務などを学び、2年の実習では学年全体で半分が病院実習、半分が学内実習となる中で、自分は病院実習に行くことができました。初めて患者を受け持つということもありとても緊張しながら実習に取り組んだことを覚えています。1番印象に残っているのは3年の領域別実習です。多くの領域別実習で学生1名につき1人の患者を受け持ち、責任を持って看護を提供していく中で、もちろん失敗することや辛いこともありましたが、しかし、実習グループの仲間や先生、指導者の方に協力していただき、仲間が困っている時は仲間を支え、グループとして乗り越えていくことができたと思っています。4年の総合実習では、興味のある領域で実習計画を立て、3年次の領域別で学んだことを活かし実習に臨みました。自分が興味のある分野に関して学ぶことができるうえ、実習計画の中に特に興味のあるものを取り込めば、臨地の看護師の方や医療従事者の方に詳しく教えていただくことができたので、とても有意義な実習になりました。これらの実習で学んだことを忘れず、臨床現場でも学び続け、看護師として活躍していきたいです。

4年間の実習の流れ

本学の臨地実習は1年～4年次の各期で実施します。早い時期から現場を知り、段階を踏んで着実に力を伸ばしていきます。

1年次 三重を知ろう I

地域で暮らす人々やその人々を支える看護活動の現場を知ること、人間・環境・看護の理解を深め、看護学を学ぶ基盤を養います。

2年次 基礎看護学実習

入院患者を受け持ち、その人と信頼関係を築きながら、指導担当看護師や教員とともに、日常生活援助を実践します。

3年次 領域別看護学実習

様々な健康状況の方々を受け持ち、学んだ知識・技術を活用して看護を実践します。

4年次 助産学実習 (自由科目)

周産期にある母子とその家族への助産実践を通して、助産師に求められる診断技術、基本的援助技術、分娩介助技術を修得します。

4年次 看護総合実習

関心のある領域・フィールドを選択し、培ってきた知識と経験をもとに、実践能力をさらに高めていきます。



日本看護技術学会 卒業研究交流セッション最優秀賞

令和3年度看護学部卒業生の村木 結南さんが、日本看護技術学会第21回学術集会の卒業研究交流セッションで最優秀賞に選出されました。演題は「騒音曝露中に行う暗算負荷が指尖の皮膚血流量や皮膚温に及ぼす影響」です。10月26日(土)の第22回学術集会にて、表彰式が行われました。卒業研究の成果が認められたことをお祝いするとともに、今後のご活躍をお祈りします。



令和3年度卒業生 村木 結南 さん

この度は、第21回日本看護技術学会の卒業研究交流セッションにおいて最優秀賞をいただき大変嬉しく思います。就職活動や実習、国家試験の勉強など忙しい中での実験や論文作りは苦労もありましたが、友人や同じゼミの仲間達に助けられてやり遂げる事が出来ました。今回初めての学会参加ということで戸惑う部分もありましたが、支えてくれた先生方に心より感謝申し上げます。

私は現在看護師3年目で、まだ経験値を積んでいる段階ですが、今回の受賞を糧に今後も看護に励んでいきたいと思います。

国際看護実習Ⅱ報告会

10月17日(木)、令和6年度国際看護実習Ⅱ報告会を開催しました。この実習は、海外の保健医療や看護について理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高め、国際的視野および多文化共生の視点を持って活動するための基礎となる能力を養うことを目的としています。

今年度はタイ王国に1名、アメリカ合衆国に4名の学生が約1週間滞在しました。学生は滞在期間中、現地の病院等の施設を見学し、医療制度、看護師の働き方、宗教・文化と医療のかかわりや、高齢化・薬物中毒・肥満など各国の健康問題について学びました。報告会では、現地で学んだことと日本との違いについて報告し、その後の質疑応答では、教員や履修を検討している学生からの質問に丁寧に答えていました。



後援会新会長のごあいさつ

会員の皆様、はじめまして。この度、後援会の会長に就任しました、中村晃康と申します。会長を拝命するのは、中学校の生徒会以来で、少々緊張しています。

就任してから、あらためて娘の“みかん大”での生活をうかがってみますと、限られた時間でしっかりと知識や技術を習得していくのはなかなか大変そうで、忙しい毎日を送っているように感じます。

このため、後援会としては、子供たちが少しでも気持ち良く大学生活を送ることができるよう、支援などを充実させていきたいと考えます。

会員の皆さまには、今後とも会費のご負担や活動へのご協力を、よろしくお願いいたします。



地域連携の取り組み

三重中央医療センターと連携協力協定を結びました

10月31日（木）、本学と独立行政法人国立病院機構三重中央医療センターは、臨床能力に優れた質の高い看護職者の教育・育成について連携協力を図るために協定を締結しました。

協定では、病院職員の教育・研修等への本学教員の派遣などによる支援や、大学教員の臨床能力の向上を図るための研修派遣、学生の臨床実習の受け入れ等の連携に取り組んでいくこととしています。

本学における病院との連携協力協定の締結は14病院目となります。

締結式終了後には、協定による取組への期待等について、意見交換が行われました。



独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター

命と地域と、
人々の想いを守りたい



当院は中勢伊賀医療圏の急性期総合病院として地域医療を支えています。津市内の3割以上の救急搬送を受け入れ、令和6年4月には新救急外来棟が運用を開始しました。看護師は、救急医や研修医、救命救急士と共にやりがいをもって救急を担っています。また三重県がん診療拠点病院としての機能や、結核や災害、感染症分野においても地域の中心的施設としての役割を担っています。それぞれの分野で専門・認定看護師が活躍していますが、チーム医療の要となる看護師は、常に患者さんの声や思いを代弁する立場でいます。

さらには総合周産期母子医療センターに指定され、24時間体制で母体・新生児搬送を受け入れています。母体胎児集中治療室、新

生児集中治療室を有し、ハイリスク妊婦や低体重新生児に対する高度な医療を行います。助産師は、助産スキルを高め、妊婦さんの意向を尊重した院内助産にも取り組んでおります。

あらゆる成長発達や多様な疾患、背景をもつ方々のかけがえのない場面に立ち合える看護に誇りを持ち、「共育」を教育理念として、お互いの実践力や人間性を高め合うことを大事にしています。秋の病院祭では、地域の方々との楽しい催しや、医療に興味をもってもらえる企画を準備します。職員も一緒に楽しみ、地域と職員の絆、そして職員同士の絆の深まりも感じます。今後は三重県立看護大学の連携協力病院として、地域医療への貢献と人材の育成にますます努めていきたいと思ひます。

（看護部長 酒井 陽子）

病院情報

独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター（平成10年7月1日開設）

- 病床数：440床
- 診療科目：糖尿病・内分泌内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、小児科（新生児）、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科・リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科・歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、救急科
- 職員数：785人（うち看護師 402人）令和6年11月1日現在



看護管理者意見交換会

本学では、県内病院等の看護管理者を対象に、本学の取組みについて理解と協力を得て、連携を深めるとともに、地域に根差した看護の教育・研究機関である本学の役割を示し、地域の医療機関のニーズ把握を図るため、本学との意見交換会を開催しています。今年度は、県内 22 病院の看護管理者の皆さまにご参集いただき、「看護の質向上への支援」に焦点を当て、三重県医療保健部からの情報提供、本学からの話題提供を行ったほか、意見交換においては、本学への要望や、各病院での課題などをお話しいただき、本学や管理者間での交流の機会となりました。



プログラム

① 行政からの情報提供

「三重の医療を支える看護職のキャリア形成」…………… 三重県医療保健部 医療政策総括監 栗原 康輔 氏

② 学長による講話

「看護者の中にあるそれぞれの気づき」…………… 学長 片田 範子

③ 本学からの情報提供

「看護の質向上への本学の取り組み」

① 「本学学生の特徴とカリキュラム外の教育」…………… 学部長 玉田 章

② 「三重県における『地元創成看護学』人材育成の展望」…………… メディアコミュニケーションセンター長 大平 肇子

③ 「地域交流センターにおけるリカレント教育への取り組み」…………… 地域交流センター長 宮崎 つた子

④ 意見交換

- ・「各施設における看護職のキャリア形成への支援の現状」
- ・「看護の質向上への支援として本学に求めること」

⑤ まとめ…………… 地域交流センター長 宮崎 つた子

人事交流制度

大学のメリット

- 教育・研究の活性化
- 教育の質の向上

病院のメリット

- 職員の指導能力の向上



人事交流制度は、本学の理念である“看護実践に関する総合的な能力を養い、人々の保健・医療・福祉の向上に寄与する人材の育成”に基づいて、連携協力協定病院等から大学へ職員を派遣する制度です。

病院等から派遣された職員は、将来、職場で指導的な役割を担うことが期待されており、大学で教育・研究活動を 1 年間経験していただきます。また、大学にとっては第一線の現場で活躍する看護職員の派遣を受けることで、臨床現場と教育研究現場の交流が促進され、教育・研究の活性化や教育の質が向上することを見込んでいます。

さらに、この取組では、病院等に大学の教育内容等を深く理解いただくことで、学生の臨地実習がより一層効果的になることも期待されています。

令和 6 年度
人事交流

中野 由佳 さん（JA 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院から派遣）

人事交流の期間も残すところ 3 か月程となりました。先生方や学生の皆さんとの関わりの中で多くの学びがあり、有意義な時間を過ごすことができている。前期では、学生の既習学習や特性を知り、後期では前期の学びを生かし、急性期病棟での実習の引率をしています。実習を重ねるごとに成長していく学生の姿を嬉しく感じ、学生と患者さんの関わりから、改めて自分の看護を振り返り、考えさせられることもあります。研究でも、進めていくにあたり、自分の看護観に気づき、やりたいことも発見できました。4 月には病院に戻りますが、大学で学ばせていただいたことを生かし教育や看護に向き合いたいと思います。



成人慢性期看護学 大川 明子 教授 にインタビュー

◎ 成人慢性期看護学とは、どのような学問ですか。

成人慢性期看護学では、病いを抱えている対象者、病いが慢性状態にある対象者、病いの増悪の回避が必要な対象者、急性期からの回復及び健康の保持・増進期にある対象者の看護を教育の主軸としています。

また、慢性疾患を有する患者の身体・心理・社会的特徴や、その家族の特徴を理解し、患者・家族への援助の基本を学びます。

◎ 研究テーマは何ですか。

慢性期患者が自身の病気を受入れ、病気と共存しながら、自身の生活地域で、その人らしく暮らすことができるように、ICT (Information and Communication Technology) を利活用して、腎臓リハビリテーションに基づく支援ができる地域包括型支援システムの構築をおこなっています。

腎臓リハビリテーションとは、「腎疾患や透析医療に基づく身体的・精神的影響を軽減させ、症状を調整し、生命予後を改善し、心理社会的ならびに職業的な状況を改善することを目的として、運動療法、食事療法と水分管理、薬物療法、教育、精神・心理的サポートなどを行う、長期にわたる包括的なプログラム」とされています。

◎ 具体的にどのような研究をされていますか。

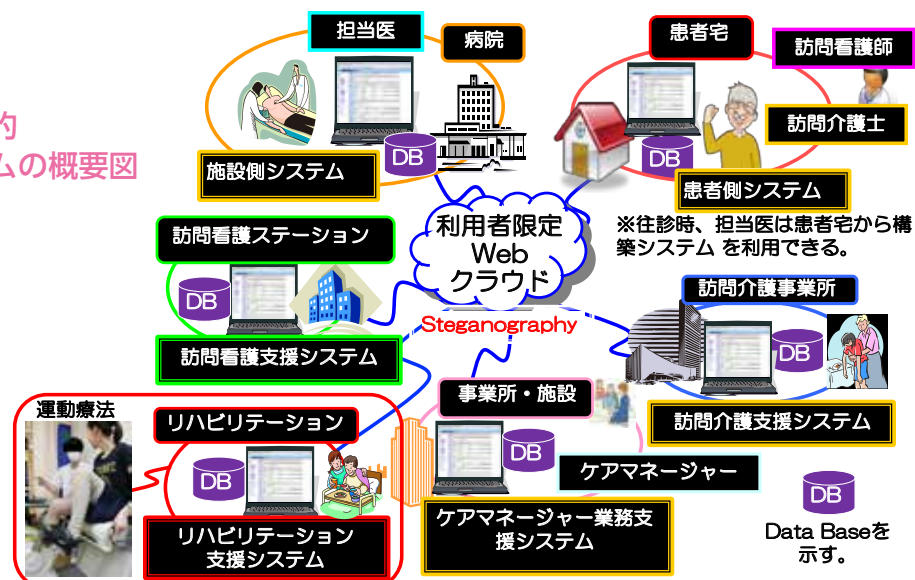
透析患者を対象とし、腎臓リハビリテーションに有効とされている運動リハビリテーションと食事療法との支援をおこなえるシステム構築です。運動リハビリテーションは、その継続や非透析日の継続がおこなわれていません。その実施と継続を促す機能の追加と、美味しく食事ができ、地域で毎日をその人らしく元気に過ごせるような支援システム作りを、ICT を利活用したこれまで我々の研究で構築した地域包括的透析患者支援システムによりおこなっています。

◎ 今後の研究の展望をお聞かせください。

前述の透析患者に対する腎臓リハビリテーションに基づいた運動の実施、継続の機能追加のシステム構築はAPCN&KSN2024 (Asian Pacific Congress of Nephrology 2024 in conjunction with The 44th Annual Meeting of the Korean Society of Nephrology : アジア太平洋腎臓学会 & 44 回韓国腎臓学会) において、優秀抄録賞を受賞しました。本研究はそれだけ有効性が高い研究であるとの証しです。

今後は本研究成果を多くの患者に利用していただけるように、より利用しやすく、利便性を高めたシステムにするべく、研究を発展させていきます。

透析患者の地域包括的
在宅透析支援システムの概要図





大学の出来事

● 大学院前期修了式

9月13日（金）、令和6年度大学院看護学研究科 前期修了証書・学位記授与式を実施し、学長から修了生1名に学位記を授与しました。

修了生の謝辞では、「本看護学研究科で得た学びや研究で得た成果を実践の場に繋ぎ、人々の健康と看護の発展のために尽力していくことが使命だと考えている。本大学院を修了したことを誇りに邁進していく」と次のステージへの力強い決意が述べられました。

当日は指導教員も出席して修了生の門出を見送りました。教職員一同、修了生の今後のご活躍を願っています。



● みかんの収穫

11月8日（金）、本学の秋の恒例行事「みかん狩り」を行いました。みかんの木（品種名「みえ紀南1号」）は平成21年4月の地方独立法人化を記念し植樹され、毎年秋には多くの実をつけます。

当日は学生が収穫作業を行い、約200個のみかんを収穫しました。みかんは学生や教職員に振舞われ、学生たちはどのみかんが美味しそうか吟味しながら収穫を楽しみました。



第2回公開講座

10月19日（土）、富本秀和氏（済生会明和病院 病院長・三重大学大学院医学研究科 特定教授）をお招きし、「認知症早期発見のコツ；早く見つけて予防介入しよう！」をテーマにご講演いただきました。講演では、認知症早期発見・早期介入の重要性と治療方法についてお話があり、さらに、認知症を防ぐ生活習慣や認知症の症状など、予防や早期発見に役立つ情報を示してくださいました。

講座には、286名の皆さまのご参加があり、「認知症にならないため、今何をすべきかよく理解できた」、「認知症のリスクに対して自分でできる健康管理があることを知り元気が出た」等の感想をいただきました。多くのご参加をありがとうございました。



第3回公開講座のお知らせ



日 時 令和7年1月11日（土）13：30～15：00〔開場・受付13：00～〕
場 所 三重県立看護大学 講堂
講 師 登坂 絵莉氏（元レスリング女子日本代表／リオデジャネイロオリンピック女子レスリング金メダリスト）
テ ー マ 「夢をつかむ」
定 員 先着200名 ※定員に達した場合、当日受付はございませんのでご了承ください。
申込期間 12月2日（月）～12月26日（木）
申込方法 右記の二次元コードまたは電話のいずれかでお申込ください。
電 話 059-233-5610（地域交流センター）



令和5年度業務実績に関する評価結果

本学は公立大学として、毎年度、三重県が設置する三重県公立大学法人評価委員会に業務実績についての評価を受けることとなっており、9月に令和5年度の業務実績に関する評価結果が公表されました。評価結果は、本学のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。



さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生支援のための基金への寄付のお願い～

令和5年度は、「みかん大進学支援給付金」制度を利用した学生5名が卒業し、看護師になる夢を叶えて三重県内の医療機関で活躍しています。これもひとえに皆さまのお力添えのおかげです。心より感謝申し上げます。

「みかん大進学支援給付金」制度は三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、進学の目的と意志が明確であるにもかかわらず経済的理由により進学が困難な学生を支援するための返還の必要のない入学時奨学給付金制度です。令和6年度は4名の新入生が本制度を利用しました。今後も皆さまのあたたかいご寄付を活用し、持続的な修学支援活動を行いたいと考えています。引き続き、本基金へのご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

寄付申出書によるご寄付のお礼

令和6年4～10月の間に8名の方から合計600,000円を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。

～三重県ふるさと応援寄附金～



ふるさと納税制度によるご寄付は、左記二次元コードからお申込み願います。



広告

「生きる力」を支える 医療の主役へ

看護師募集中
インターンシップ
随時受付中

回復期リハビリテーションや、緩和ケアを中心とした専門性の高い大学病院です。
詳細はホームページでご確認ください。 <https://nanakuri.fujita-hu.ac.jp>

藤田医科大学 七栗記念病院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL

〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地1
TEL:059-252-1555 FAX:059-252-1383

看護部
ホームページ

七栗記念病院
ホームページ

地域と繋がり安心を届けたい

“なりたい看護師”を応援します

名張市立病院

〒518-0481
名張市百合が丘西1番町178番地
TEL: 0595-61-1100 (代表)
HP: <https://nabari-city-hospital.jp/>

看護師募集中
臨床実習
各種手当支給

- 地域医療支援病院
- 災害拠点病院
- がん診療連携病院

公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116
三重県津市夢が丘1丁目1番地1
TEL 059-233-5600(代)
FAX 059-233-5666
<https://www.mcn.ac.jp/>

本学マスコットキャラクター
「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



本学は、「大学基準協会」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。